

月刊

地域保健



●特集

関わり方の極意—新人保健師よ、訪問を恐れるな

●統括に聞く

田中由紀子さん 《神戸市 保健福祉局 健康部 健康増進担当部長》

●ピープル

菅原哲男さん 《社会福祉法人 児童養護施設 光の子どもの家 理事長》



8

特集

関わり方の極意

～新人保健師よ、訪問を恐れるな～

- 10 ファーストアプローチで重要なこと
- 15 心の問題を抱えた人に関わるとき
- 22 “暴力の危険性の高い人”に関わるとき
- 28 会えないときにはどうすればよいか
- 36 援助対象者との関係性の持ち方のルール
- 42 倫理的場面に直面したとき
- 48 コミュニケーションが困難な方の場合の関わり方
- 52 多問題家族に遭遇したとき
- 57 自分以外の専門職が担当している事案のとき

1

統括に聞く

田中由紀子さん（神戸市 保健福祉局 健康部 健康増進担当部長）

66

PICK UP

閉経後の女性の骨粗鬆症に対する意識・実態調査

72

REPORT

平成 26 年度市町村保健師管理者能力育成研修

113

ひよこ、ホップ、ステップ、ジャンプ！

岡田絵里さん（三重県 伊賀保健所 保健衛生室 健康増進課）

118

ピープル

菅原哲男さん（社会福祉法人 児童養護施設 光の子どもの家 理事長）

連載

- | | | |
|----|--------------------------|--------------|
| 64 | 理解して生かす保健師用語《第 2 回》 | 「ヘルスプロモーション」 |
| 80 | ESSAY 国際保健《第 2 回》 | 松田正己 |
| 82 | 保健師のための閑話ケア《第 53 回》 | 藤本裕明 |
| 86 | 中臣さんの 環境衛生ウオッチング《第 38 回》 | 中臣昌広 |
| 91 | いまだき子育てアドバイス《第 212 回》 | 中川信子 |

兵庫県
神戸市

五感を働かせ、マネジメント能力を発揮することを心掛けて
新任、中堅、管理職——。あらゆる声を集めて港町神戸の舵をとる。

田中由紀子 さん

● 神戸市 保健福祉局 健康部 健康増進担当部長



兵庫県は、兵庫県の県庁所在地でもある神戸市は、人口約154万人の政令指定都市である。穏やかな瀬戸内海に面し、古くから日本を代表する港町として栄え、淡路島へ通じる明石海峡大橋も有名だ。全国から観光客が集まりにぎわう、おしゃれな町としても知られる神戸だが、20年前の1995（平成7）年1月17日、阪神・淡路大震災では甚大な被害を受けた。市役所に隣接する公園、東遊園地には、「一・一七 希望の灯り」と刻まれたモニュメントが建てられ、種火が燃え続けている。

その神戸市で統括保健師として活躍する、保健福祉局健康増進担当部長の田中由紀子さんにお話をうかがった。

精神科の看護師から地域の看護を目指し保健師に

田中さんは四国の香川県で生まれ、東京で看護師をしていた二人の叔母に憧れ、看護師になった。看護師として

1年目の職場は精神科だった。「患者の出口を見つけてあげたい。家族や地域の中での看護ができないだろうか」と考え、翌年には岡山公衆衛生看護学校に入学し、公衆衛生看護を学び、保健師を目指した。毎朝5時に起床し、遠くの保健所や市町村実習に出掛け、深夜までレポートを書くハードな日々だが、離島や山間僻地の実習は楽しかったと振り返る。卒業後は石川島播磨重工業健康保険組合で民間企業の保健師として1年半働き、その後、神戸市に入職して現在に至る。

神戸市では、2013（平成25）年の厚生労働省による保健師活動指針に先駆け、1975（昭和50）年ごろから本庁に、保健師の採用、研修、人材育成、配置や指針など業務のまとめをする課長級の保健師を配置している。田中さんも、保健福祉局健康部主幹となった2008（平成20）年から、統括的な業務に実質的に関わってきた。



「『この自治体においてもそうですが、分散配置すると全体が見えづらくなります。神戸市では、地区分担で各区に担当係長、課長を配置し、地区での保健師の役割を十分に見られるようにしています。また、本庁の保健福祉の各分野の企画調整部門においても、きつちりと保健師の活動を見られるよう担当係長、課長として保健師を配置し、そこで集約したことを私が確認して、神戸市の政策使命を担っているかどうかをチェックしています。それが統括保健師としての私の大きな役割です」

14（平成26）年から、田中さんは保

関わり方の極意

新人保健師よ、訪問を恐れるな

保健師にとって「家庭訪問」は、支援の糸口を見いだしたり、地域の人との結び付きを深めるためにも欠かせない大切な業務の一つ。しかし、いざ住民と関わりを持とうとしても、いつも居留守だったり、家族関係が複雑だったり、時には暴言を吐かれたりとさまざまな壁が立ちはだかり、新人保健師の中には、訪問に気後れしてしまう人もいるかもしれない。

今回は、ベテラン保健師たちにさまざまなパターンについての関わり方の極意を教えていただいた。住民との関わりに悩んでいる人は、ぜひ先輩たちの言葉を参考にしてほしい。

P10 ファーストアプローチで重要なこと

◎安齊智子（堺市美原保健センター）

P15 心の問題を抱えた人に関わる時

◎伊藤優子（葉山町）

P22 "暴力の危険性の高い人"に関わる時

◎池戸啓子（新宿区健康部 東新宿保健センター）

P28 会えないときにはどうすればよいか

◎岩淵文子（宇都宮市上河内保健センター）

P36 援助対象者との関係性の持ち方のルール

◎佐川きよみ（葛飾区保健所）

P42 倫理的場面に直面したとき

◎樋上 静（奈良市保健所）

P48 コミュニケーションが困難な方の場合の関わり方 —本人不在にならないために—

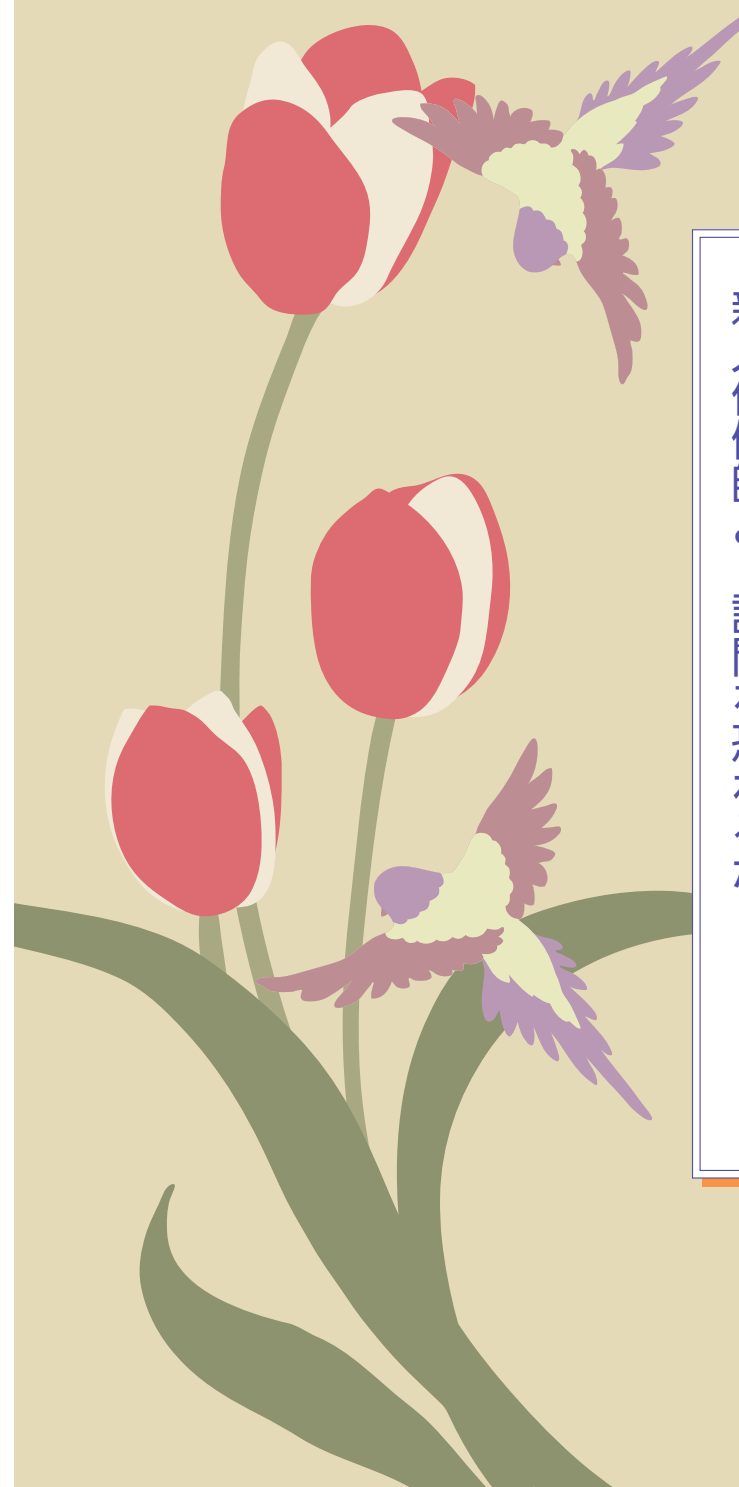
◎仲間いずみ（大阪市淀川区役所）

P52 多問題家族に遭遇したとき

◎取材協力：伊藤昌子さん（豊川市健康福祉部）

P57 自分以外の専門職が担当している事案のとき

◎後藤文枝（東海市市民福祉部）





美原保健センター外観

介護予防を目的に「チューブ体操」自主グループが広がりを見せ、生き生きとした住民主体の活動が特徴です。また、地区担当保健師が、住民からの相談を受け、支援することさらに自主グループ活動が成熟する姿を目の当たりにしてきました。

地区活動全般において、住民や関係

機関の皆さんとは「顔の見える」つながりで活動に厚みができるよう心掛け

私の新任期を振り返ると、保健師の先輩とともに地域のことを考え、まい進してきました。家庭や老人会など地域を訪問し、訪問かばんには血圧計など道具を携えて、健康状態を聴き取ることが入口にして、家庭に入り込む抵抗感を克服し、いろいろなお話をすることが思い出されます。そして、個別支援の過程で、他職種の先輩との訪問を通しコミュニケーションの取り方などを学んでいきました。

失敗や思い通りにいかないことも多々あり、訪問で自宅に入れてもらえず、サービスを勧めても受け入れられないこともありました。「保健師が良

事例から 対応方法を考える

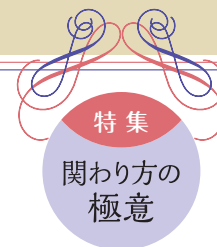
ています。
こうしたことは、個別の関わりにおいても同様の状況が見られるのではないのでしょうか。



美原区が取り組む「チューブ体操」

いと思うことが、なぜ受け入れてもらえないのか？」と考えるようになりましたが、訪問を繰り返すうちに、次第に思いを話してくださるようになりました。

このような経験を5年、10年と重ね



ファーストアプローチで 重要なこと



堺市美原保健センター

安齊智子

(あんざい・ともこ 健康推進係 係長) 前段中央が筆者

これから息の長い支援をしていくに当たって、ファーストアプローチは重要だ。相手が安心して話ができる雰囲気づくりのコツやよりよい関係を築くための心構えとは？

関わりの第一歩で大切なポイントを教えていただいた。

堺市は近畿の中央部に位置し人口約84万人で、美原町との合併で7区となり、2006（平成18）年4月に政令指定都市になりました。

本市では地区担当制と業務担当制を併用して保健師活動を展開し、人材育成に力を注いでいます。初級研修では事例検討を盛り込んで家族や地域を見る目を養い、中堅研修では業務評価シートを用いてPDCAサイクルを学び、リーダーとしての資質を磨きます。

これらの学びを先輩保健師が後方支援し、重層的な体制を取っているのが特徴です。こうした環境の下、保健師たちは切磋琢磨し各区で地区活動を展開しています。

美原区の特徴

私が所属する美原区は旧美原町に当たり、人口規模約4万人、市内7区ある中で一番人口規模の小さい区です。



情熱的でフットワークの軽い 保健師を目指して

焦らず着実にキャリアを積んでいきたい

おかだ えり
岡田絵里さん

●三重県伊賀保健所
保健衛生室 健康増進課



「伊賀市に住み始めたころ市役所に行ったら、たまたまそのとき（伊賀流忍者発祥の地にちなんで）職員が忍者の格好をしていました（笑）。それを見て『あつ、面白い土地に来たな』と、ワクワクしたのを覚えています。それと、室長さんから『伊賀は三重県のかでも積雪量が多くて寒いけど、人はあつたかいよ』と言われたのが印象に残っています」

そう語る岡田絵里さんは、三重県伊賀保健所に入職して3年目（取材時の



2015（平成27）年3月13日時点）の保健師。休日には友人と伊賀の温泉や観光名所を巡ったり、おいしいものを食べに出掛けたりしているそうだが、行きたい所は尽きないという。

祖父母の存在が 生き方に大きく影響

岡田さんは、三重県南部に位置する熊野市の出身。山、海、川が身近にある、自然に恵まれた環境の中で育つた。「子どものころは、自然と戯れながら

過ごしていました。友達と川で泳いだり、海をただボーッと眺めたり。熊野を離れてみて、そのよさに気付きました。伊賀には海がないので、時々、熊野が恋しくなります」両親が共働きだったこともあり、小学生のころは、授業が終わると祖父



▲書類に記録したり整理したりするのが好きだという岡田さん

母の家に行って夕食の準備を手伝い、その日の出来事を話しながら一緒にご飯を食べていた。料理上手な祖母からは、きんぴらごぼうなどの家庭料理を教わったほか、季節ごとの行事を大切にすることを学んだ。

また、岡田さんには1年間、看護師として働いた経験があるが、そのきつ

心の傷を負った子どもたちに、家族同様の愛情を 自分の生を受け止め、歩いていけるように

社会福祉法人 児童養護施設「光の子どもの家」理事長
菅原哲男さん

● 聞き手 白井美樹（ライター）



菅原哲男さんは、40年以上にわたり児童養護施設で子ども達と関わってきた。1985（昭和60）年には、埼玉県で社会福祉法人「光の子どもの家」を設立。ここには、何らかの事情により家族とともに暮らせなくなった子どもたちが、常時36人ほど暮らしている。そんな子どもたちに家族同様の愛情を注ぎ、心の闇や傷を癒やすことに尽力し続けてきた。その菅原さんに、福祉の仕事に身を置くようになったきっかけや、児童養護の在り方をうかがった。

「心のへき地を耕す」

— もともとは、物理学をやっていたそうですね。

菅原 将来、ノーベル賞でももらおうかなんて思っていましたね（笑）。青山学院大学で物理学教室の助手として、研究をしたり、学生の指導をしたりしていました。

— 福祉の仕事に転じたきっかけは？

菅原 私が25歳のころ、60年安保の学園紛争に挫折し、生き方を摸索する若者たちが、ボランティアでいろいろな施設を訪問する風潮がありました。私も学生たちと一緒に、ある婦人保護施設を訪問したところ、すごく衝撃的で感動的な事件に遭遇したのがきっかけでした。

— どんな事件だったのですか？

菅原 ちょうど売春禁止法ができたばかりで、各都道府県に1カ所以上の婦

PROFILE

● すがわら・てつお ●

1939年秋田県生まれ。大学卒業後、婦人保護施設「いずみ寮」、児童養護施設「城山学園」「愛泉寮」を経て1985年、児童養護施設「光の子どもの家」を設立。施設長を務める。現在は聖学院大学・足利短期大学・日本社会事業大学講師を兼務。著書に『誰がこの子を受けとめるのか—光の子どもの家の記録』（言叢社）、「家族の再生—ファミリーソーシャルワーカーの仕事」（言叢社）などがある。

人保護施設が作られていました。しかし、いったん保護されても、無断外出をして売春を繰り返して、捕まって戻ってくる女性がたくさんいました。その施設にいた40歳過ぎの女性も無断外出したため、帰ってきたときに20代後半の寮母に、厳しくとがめられたのです。すると、その女性が逆上し、「あなたに私の苦境が分かるのか」と寮母に